広島大学大学院教育学研究科紀要　第二部　第66号　2017　185－194

日本語と韓国語の結果状態形の使用基準の違い

李　　在　鉉
（2017年10月４日受理）

The Comparison of the Resultant-State Verb Forms in Japanese and Korean

Jaehyeon Lee

Abstract: This study examines the principles on which the resultant-state verb forms are used in Japanese and Korean. The past tense and resultant-state forms of verb in a collection of Korean-Japanese bilingual scenarios were analyzed in order to find out the correspondence between Japanese *–teiru*, and Korean past and resultant-state forms. The results showed the resultant-state form is used in both languages under the following conditions: 1) when the speaker wants to convey that "it is p" to the hearer, who thinks that "it is not p but q"; 2) when the speaker conveys the information "p" which is unknown to the hearer; and 3) when the speaker expresses the result of a change of state he/she has just observed, and this change was unexpected: that is, the speaker expects the state to be p. but it is q and –p. However, the past tense form is used for *–teiru* in Korean if there is no discrepancy between the speaker's expectation and the fact he/she has just discovered. The Japanese resultant-state form is used when "there is no understanding of moment of change or the state before and after change" (Inoue *et al.* 2002), irrespective of whether there is deviation of recognition or not. However, it can be concluded that the resultant-state form in Korean is used when there is "a deviation between the speaker's recognition and hearer's recognition (or the state in front of his/her eyes)".

Key words: contrastive study of Japanese and Korean, past tense form, resultant-state form, criteria for the usage, deviation of recognition
キーワード：日韓対照研究，過去形，結果状態形，使用基準，認識のずれ

１．はじめに

韓国語を母語とする日本語学習者（以下，韓国人学習者）には，結果状態を言う場面で次のような「- タ」と「- テイル」の混同の誤用が見られる。

(1)（一緒に食事をしている友達の頬にご飯粒が付いている。それを見て，友達に）
ほっぺたに，なにか付い<u>た</u>よ。
（N1，学習歴：10年9ヶ月，滞在歴：１年4ヶ月）

(1) のような場合，韓国語では過去形の「-eoss-da」の使用が自然であるが，日本語では過去形の使用は不自然である。

結果状態を言う場面において，日本語では過去形を使用するためには，その変化を直接目撃（あるいは体験的に把握）しなければならないが，韓国語の過去形の使用には，日本語のような制限がない[1)]。

(2)（聞き手の服のボタンがとれる瞬間を見て）
a. ボタン｛とれ<u>た</u>/? とれてる｝。

本論文は，課程博士候補論文を構成する論文の一部として，以下の審査委員により審査を受けた。
審査委員：白川博之（主任指導教員），柳澤浩哉，畑佐由紀子，仁科陽江，金　愛蘭

b. danchu{tteoleoji-eoss-da
とれる - 過去形 - 語尾
/?tteoleoji-eo iss-da}.
とれる - 結果状態形 - 語尾

(3)（聞き手の服のボタンがとれているのを見て）
a. ボタン {? とれた / とれてる }。
b. danchu{tteoleoji-eoss-da
とれる - 過去形 - 語尾
/tteoleoji-eo iss-da}.
とれる - 結果状態形 - 語尾
((2)(3)：作例)

(2) のように，変化の瞬間を目撃した場合は，両言語とも過去形の使用が自然である。(3) のように，変化の瞬間を目撃していない場合は，日本語では結果状態形しか使用できないが，韓国語では過去形が自然に使用できる。

このように，結果状態場面において，日本語と韓国語の過去形(「- タ」「-eoss-da」)と結果状態形(「- テイル」「-eo iss-da」）の使い分けの基準が違うことが窺える。

(1) や (3) のような場面に韓国語では過去形が自然であることに加えて，韓国における日本語教育の現場では結果状態の「- テイル」は韓国語の「-eo iss-da」に該当する表現であると教えられていることから，韓国人学習者には結果状態場面における日本語と韓国語の結果状態形の使用基準の違いについて説明する必要がある。

2．先行研究

結果状態場面における日本語と韓国語の過去形と結果状態形の使い分けに関する主な研究としては，生越（1997），井上ほか（2002）が挙げられる。両研究ともに，日本語においては，①変化の瞬間を目撃した場合には過去形「- タ」が，②変化の前後の状態を把握している場合には過去形「- タ」と結果状態形「- テイル」が，③変化の過程が把握されていない場合には結果状態形「- テイル」が用いられるとしている。①～③から，日本語の場合は，結果状態において過去形「- タ」を用いるためには，変化の瞬間を直接知覚したか，それに準ずる情報量を持っていなければならないと述べている。

一方，韓国語については，両研究の記述に多少違いがある。まず，生越（1997）は，経緯全体を完全に把握する必要はなく，その状況がある出来事の結果だと把握したとき，過去形「-eoss-da」が使えるとしている。なお，結果状態形「-eo iss-da」は，変化の経緯が把握できない，すなわち，その状況をもとにして一つのまとまった出来事を再構築できないときに使うという。韓国語の結果状態形の使用場面については，初めて見た状況の例はほとんどなく，目の前の状況が以前自分で見聞きした状況で，それを他の人に報告したり，自分で再確認するときの例が多いと報告している。しかし，「変化の経緯が把握できない」という結果状態形の使用基準と，報告や再確認する場面の間には，どのようなつながりがあるのだろうか。

次に，井上ほか（2002）は，韓国語の状態形（進行状態形・結果状態形）は場面説明的な意味が明確であり，具体的な場面設定がなければ使えないとしている。結果状態場面において，①変化の瞬間を目撃した場合は日本語と同様に過去形「-eoss-da」が使え，②変化の前後の状態を把握している場合にも日本語と同様に過去形「-eoss-da」も結果状態形「-eo iss-da」も使えるという。③変化の過程が把握されていない場合には，日本語同様，結果状態形「-eo iss-da」が使えるだけではなく，日本語では使われない過去形「-eoss-da」も使えるとしている。しかし，変化の前後の状態を把握している場合と，変化の過程が把握されていない場合において必要とされる「具体的な場面設定」とは，具体的にどのようなものなのだろうか。

このように，先行研究では，日本語の結果状態における過去形と結果状態形の使用基準の違いについては明らかになっているものの，韓国語の結果状態における過去形と結果状態形の使い分けの基準についてはまだ不明なところが多い。そのため，結果的には結果状態場面における日本語と韓国語の過去形と結果状態の使用基準の違いについては明らかになっていないと言える。

そこで，本稿では，結果状態場面における日本語と韓国語の当該形式の対応関係と使用場面に注目し，日本語と韓国語の結果状態形の使用基準の違いについて考察を行う。また，その結果を踏まえ，(1) のような韓国人学習者の誤用が生じる原因の解明を試みる。

3．日本語の結果状態形と韓国語との対応関係および，その使用場面

李・白川（2017）は，韓日対訳シナリオ集を用い，日本語の結果状態形と韓国語のアスペクト形式の対応関係について考察している。その結果，日本語の結果状態形は，主に韓国語の過去形と対応しており，韓国語の結果状態形との対応は，話し手が聞き手にある出来事について説明・描写する場面に限って見られると指摘している。しかし，結果状態における日本語と韓

国語の過去形と結果状態形の使用基準に，どのような違いがあるかについて場面に即して具体的には論じられていない。ここでは，李・白川（2017）の調査結果を用い，結果状態における日本語の結果状態形と韓国語の過去形と結果状態形が対応する場面に注目し，日本語と韓国語の結果状態形の使用基準の違いについて考察する。

表1は，韓日対訳シナリオ集における日本語の結果状態形と韓国語の過去形と結果状態形の対応関係をまとめたものである。

＜表1　韓日対訳シナリオ集における日本語の結果状態形と韓国語の過去形・結果状態形の対応関係＞

対応関係		会話文＝93例	地の文＝680例
-テイル	-eoss-da	53（57%）	14（2%）
	-eo iss-da	40（43%）	666（98%）

以下では，まず，日本語の結果状態形と韓国語の結果状態形が対応する場面について，次に，日本語の結果状態形と韓国語の過去形が対応する場面について考察する。

3－1日・結果状態形と韓・結果状態形が対応する場面

日本語と韓国語ともに結果状態形が使用された例[2]は，①話し手と聞き手の認識（＝発話時以前に持っている情報・知識）に違いがある場面（3-1-1）と，②話し手が持っている情報が聞き手にはない場面（3-1-2）であった。

3－1－1 話し手と聞き手の認識に違いがある場面

(4) 階段式の大きな教室。教授のキム・ジヌが講義をしている。ジヌ，説明が終わると，黒板に書いた公式を消す。学生，抗議の声を上げる。

ジヌ「頭で理解してついてくればいいんで，書き写す必要はない。

→公式は本を繰れば，

a. すべて出**てい**ます。

b. da nao-a iss-eoyo.

すべて 出る - 結果状態形 - 丁寧

（『冬のソナタ』）

(4) は，数学の講義で学生（聞き手）は，黒板の公式が重要だと思い，ノートに写そうとした（波線部から読み取れる）が，教授のジヌに公式を消され，抗議の声を上げる。それに対して，教授のジヌ（話し手）は，公式を写すことより理解することが大事であることを話す場面である。すなわち，話し手は「公式は本にでている（＝写す必要はない）」と思っているが，聞き手は「写す必要がある」と思っており，両者の間に認識の違いがある。

(5) ヨンス「命日は亡くなった方を思い出すための日でしょ。お酒を飲んで悲しむための日じゃないじゃない。（ソンジェを起こそうとしながら）立って！お酒は，亡くなったお母様に差し上げましょう」

ソンジェ（!）

ヨンス「室長から話は聞きました。お母様の話…」

ソンジェ「兄さんが，そんな話をしたの？」

ヨンス「…」

ソンジェ「僕とは母さんが違うって話もしたの？」

ヨンス（驚く）

→ソンジェ「僕の母さん…，僕の母さんは

a. 生き**てる**よ！」

b. sal-a iss-eoyo ！[3]

生きる - 結果状態形 - 丁寧

（『美しき日々』）

(5) は，ソンジェの腹違いの兄（室長）の母の命日に，お酒を飲んで悲しんでいるソンジェと，それを見てソンジェを慰めに来たヨンスとの対話である。(4) の波線部からわかるように，ヨンス（聞き手）は，ソンジェの母が亡くなっていると思っていたが，ソンジェ（話し手）は，兄とは母が違うことを言い，自分の母は生きていることを話す場面である。

(6) 主任のミランとスヨン，コーヒーを飲みながら話をしている。

ミラン「キム・イナさんは，研修に行ったんじゃないの。あの時，あんなふうに言ったのは…，会の方針だったのよ。カジノの幹部が不祥事を起こして，警察に追われていることが外部に知れたら，カジノのイメージダウンになるから…」

スヨン「…」

→ミラン「キム・イナとユ・ジョングの2人は，殺人事件に　a. 関わっ**てる**の。

b. yeonludue-eo iss-eo.[4]

関わる - 結果状態形 - 語尾

（『オールイン』）

(6) は，休暇が終わっても会社に出勤しないキム・イナのことを心配しているスヨンと，マネージャーのミランとの対話である。キム・イナが研修に行っていると思っているスヨン（聞き手）に，マネージャーのミラン（話し手）が，キム・イナは研修に行っているのではなく，実は殺人事件に関わっていることを話す場面である。

(4) ～ (6) は，いずれも，発話場面の直前における話

し手と聞き手の認識（情報・知識）に違いがある場面である。すなわち，話し手はｐと思っているが，聞き手はｐではなくｑと思っている。

話し手と聞き手の認識に違いがある場面では，日本語では過去形に言い換えができないが，韓国語では過去形への言い換えができる[5]。

(4)’ 公式は本を繰れば，
　a. すべて｛# 出ました / 出ています｝。
　b. da　｛nao-ass-eoyo[6] /
　　すべて　出る - 過去形 - 丁寧
　　nao-a iss-eoyo｝.
　　出る - 結果状態形 - 丁寧
(5)’ 僕の母さんは
　a. ｛# 生きました / 生き<u>てい</u>ます｝！
　b. ｛sal-ass-eoyo[7] /
　　生きる - 過去形 - 丁寧
　　sal-a iss-eoyo｝！
　　生きる - 結果状態形 - 丁寧
(6)’ キム・イナとユ・ジョングの2人は，殺人事件に
　a. ｛# 関わったの / 関わっ<u>てる</u>の｝。
　b. ｛yeonludue-eoss-eo /
　　関わる - 過去形 - 語尾
　　yeonludue-eo iss-eo｝.
　　関わる - 結果状態形 - 語尾

3ー1ー2 話し手が持っている情報が聞き手にはない場面

(7) ソンチュン，ミョンジャ，ソンジェ，シャンパンのグラスを合わせていると，旅行かばんを持ったミンチョル，入ってくる。ミンチョル，仲の良い三人の姿を見て顔をこわばらせる。

…＜中略＞…

ミョンジャ「（駆け寄ってミンチョルのかばんを持ってやりながら）来るんだったら連絡でもして来れば，迎えにも行ったのに…」
ミンチョル「ミンジは？」
ミョンジャ（ぎくっとしてソンチュンを見る）
ソンチュン「あいつは家にいない」
ミンチョル「家にいないって？」
→ミョンジャ「ああ…，お祖母ちゃんのところに
　a. 行っ<u>てる</u>わ」
　b. ga-<u>(a) iss</u>-eo.
　　行く - 結果状態形 - 語尾

（『美しき日々』）

(7) は，留学を終えて家に帰ってきたミンチョルとその家族の対話である。ミンチョル（聞き手）は，継母のミョンジャと妹のミンジの仲がよくなかったため，ミンジのことが心配である。そのため，留学から家に帰った途端，継母のミョンジャにミンジはどこにいるかを聞く。それに対して，ミョンジャ（話し手）は，ミンジが祖母のところに行っていると答える場面である。「ミンジが祖母のところに行っている」ことを知らない聞き手に対して，話し手はその事実を告知している。

(8) イナをわしづかみにしてその胸を軽く叩きながら，
ジョング「しっかりしろ，こいつ！スヨンはいない！もう，8ヶ月も前のことだ！意識の回復しないまま，こうやって8ヶ月，お前は寝てたんだ。しっかりしろ，イナ。落ち着け…（イナをベッドに横たえる）」
イナ「スヨンが待ってるんだ」

スヨンがイナを待ち続けた聖堂を歩き回るイナ。スヨンの痕跡を探すかのように…。そんなイナを見守るジョング。がらんとした聖堂の中に入り，まわりを見回すイナ。海に向かって立つ，イナとジョング。

ジョング「その事件から2ヶ月後に，ジョンウォンと一緒に韓国へ帰ったんだ。警察の捜査が進む間は俺たちもベトナム系マフィアもなりを潜めていた。
　→対外的にはお前は死んだことに
　　a. なっ<u>てる</u>。
　　b. doe-<u>eo iss-eo</u>.
　　なる - 結果状態形 - 語尾
　あの2人もお前が死んだと思ってる」

（『オールイン』）

(8) は，恋人のスヨンとの結婚式がある日に，銃に打たれ長い間寝ていたが意識を回復し，結婚式をあげることにした聖堂に行こうとしているイナと，それを阻止するジョングとの対話である。ジョング（話し手）がイナ（聞き手）に，スヨンはイナが銃に撃たれた事件から2ヶ月後に韓国に帰っており，イナは対外的に死んでいることを言う場面である。「自分が死んだことになっている」ことを知らない聞き手に対して，話し手はその事実を告げている。

(9) 舞台ではトランペットの演奏などが続き，ボーカルの歌を最後にコンサートは幕を閉じようとしている。

サンヒョク，DJ にサインを送ると，DJ，締めくくりのコメントを述べ始める。

…＜中略＞…

DJ「プロデューサーのキム・サンヒョクさんです。

彼は見かけとは違って，とんでもない人です。公開放送はいろいろな所でやることができますよね。小劇場とか体育館とか。なのになぜ，あえてこの雪原でのコンサートを企画したか，それは取りも直さず，キム・サンヒョクさんのフィアンセが当地で働いているからで，

→その彼女，今，ここに　a. 来ています」

b. o-a iss-subnida

来る - 結果状態形 - 丁寧

観客「ワア～」

（『冬のソナタ』）

(9) は，ラジオの公開放送が終わった後，プロデューサーのサンヒョクとサンヒョクのフィアンセを紹介する DJ と観客の対話である。DJ（話し手）は，観客（聞き手）にサンヒョクが雪原でのコンサートを企画したのは，サンヒョクさんのフィアンセが当地で働いているからだと言い，その彼女がここにいることを話す場面である。ここでも，聞き手は「サンヒョクのフィアンセが来ている」ことを知らない。話し手はその事実を聞き手に知らせている。

(7) ～ (9) は，話し手がもっている情報を，それを持たない聞き手に伝える場面である。すなわち，発話場面の直前において話し手が持っている認識（情報・知識）は p であるが，それに対する聞き手の認識は ϕ である。話し手が持っている情報が聞き手にはない場面では，日本語では過去形に言い換えができないが，韓国語では過去形への言い換えができる。

(7)’ お祖母ちゃんのところに

a. {# 行ったわ / 行ってるわ }。

b. { ga-ass-eo /

行く - 過去形 - 語尾

ga-(a) iss-eo }.

行く - 結果状態形 - 語尾

(8)’ 対外的にはお前は死んだことに

a. {# なった / なってる }。

b. { doe-eoss-eo /

なる - 過去形 - 語尾

doe-eo iss-eo }.

なる - 結果状態形 - 語尾

(9)’ その彼女，今，ここに

a. {# 来ました / 来ています }。

b. { o-ass-subnida /

来る - 過去形 - 丁寧

o-a iss-subnida }.

来る - 結果状態形 - 丁寧

3－2 日・結果状態形と韓・過去形が対応する場面

日本語では結果状態形が使用されているが，韓国語では過去形が使用されている例は，話し手が初めて見た結果状態を聞き手に言う場面であった。

(10) ジュンサン，車の前で待っていると，遠くからユジンが走ってくる。

ジュンサン「（笑いながら）また遅刻だ」

ユジン「（息を切らして）キム次長とジョンアさんは？」

ジュンサン「先に出発したよ」

ユジン「あれ？（ジュンサンを見て）

→目が　a. 充血してる…

b. chunghyeldoe-eoss-da…

充血する - 過去形 - 語尾

眠れなかったの？」　（『冬のソナタ』）

(11) ジュテ，シニョンの母にミングォンの家へ一度寄るように言う。シニョンとシニョンの母，ミングォンの家を訪ねてくる。

…＜中略＞…

シニョン「この辺みたいだけど？」

シニョンの母「どの辺だって？」

シニョン「ほら，見て。30番台で始まってるじゃない」

シニョンの母「そう。それじゃこの家みたいだね。これだ，そうだろ？だけど何だってこんなところにリヤカーがあるんだい？

→門が　a. 開いてるよ，ほら」

b. yeoli-eoss-da, ya.

開く - 過去形 - 語尾

（『クッキ』）

(12) ミンジ，女性の顔を注意深く見ながら真剣な顔で似顔絵を描いている。ミンジ，完成した似顔絵を女性に渡す。

女性（絵を眺める）

ミンジ（女性の表情を伺いながら緊張する）

女性「（不満そうに）すいません！」

ミンジ「（驚く）はい？」

→女性「サインが　a. 抜けてるじゃないの！」

b. bbaji-eoss-janha-yo!

抜ける - 過去形 - じゃない - 語尾

ミンジ「サインですか？」

女性「描いた人のサインが入ってなきゃ，格好つかないじゃない」　（『美しき日々』）

(10) ～ (12) は，それぞれ波線部の「あれ？（ジュンサンを見て）」「それじゃこの家みたいだね」「女性（絵を眺める）」から，話し手が眼前の状態を初めてみた

と読み取れる。

このような場面において日本語では過去形の使用ができないが，韓国語では過去形の使用が自然であり，結果状態形に言い換えができない。

(10) ～ (12) のような場面は，話し手は情報を持っている（結果状態に気づいた）が，聞き手はその情報を持っていない（結果状態に気づいていない）という点で3－1－2の場面と共通している。しかし，3－1－2の場面は，話し手が発話場面以前に，ある結果状態を把握しているが，(10) ～ (12) のような場面は，話し手が発話場面で初めて結果状態を把握した点が異なる。すなわち，3－1－2の場面は，話し手はすでにある結果状態についての情報を持っているが，聞き手はその情報を持っていない場面であり，話し手と聞き手との情報・知識の違いを踏まえて結果状態を述べる場面であると考えられるが，(10) ～ (12) のような場面は，話し手がある結果状態について初めて気づいたことから，単に眼前の結果状態を述べる場面であると考えられる。

(10) ～ (12) のように，話し手がある結果状態について初めて気づいた場合でも，(10)’～ (12)’のような場合は，韓国語の結果状態形が使用できる。

(10)’目が a. {# 充血した / 充血した充血してる }
b. { chunghyeldoe-eoss-da /
充血する - 過去形 - 語尾
chunghyeldoe-eo iss-da }
充血する - 過去形 - 語尾
昨日，十分に寝たじゃない？

(11)’誰もいないはずなのに，
門が a. {# 開いた / 開い**てる**よ }，ほら
b. { yeoli-eoss-da /
開く - 過去形 - 語尾
yeoli -eoss- da }, ya.
開く - 結果状態形 - 語尾 感嘆

(12)’サインが a. {# 抜けた / 抜けてる } じゃないの！
b. { bbaji-eoss-janha-yo!/
抜ける - 過去形 - じゃない - 語尾
bbaji-eo iss-janha-yo!}
抜ける - 結果状態形 - じゃない - 語尾
自分が描いた絵にサインをするのは普通じゃないの？

(10)’～ (12)’は，それぞれ波線部の「昨日，十分に寝たじゃない？」「誰もいないはずなのに」「自分が描いた絵にサインをするのは普通じゃないの？」から読み取れるように，(10)’は，「話し手は聞き手が昨日十分に寝たため，目は充血していないと思っていたが，聞き手の目が充血しているのに気づいた」場面，(11)’は，「話し手は誰もいない（＝門が閉まっている）と思っていたが，門が開いているのに気づいた」場面，(12)’は「話し手は，絵を描いたら最後にサインをすると思っていたが，聞き手が描いた絵にサインがないのに気づいた」場面である。つまり，話し手が結果状態について初めて気づいた場合であっても，話し手が持っている情報・知識の違い（(10)’～ (12)’の波線部）を踏まえて結果状態を述べるときは，結果状態形が使用できると考えられる。

4．日本語と韓国語の結果状態形の使い分けの基準

以上，韓日対訳シナリオ集の会話文における日本語の結果状態形と韓国語の対応関係を，場面と言い換えの可否についてまとめると表2のようになる。

＜表2　日本語の結果状態形と韓国語との対応関係およびその場面と言い換えの可否＞

対応関係		場面	韓：言い換え
- テイル	-eo iss-da	話し手：p 聞き手：q	「-eoss-da」に言い換え可能
		話し手：p 聞き手：ϕ	
	-eoss-da	話し手：初見 聞き手：ϕ	「-eo iss-da」に言い換え不可

韓国語において，結果状態形が使用された場面と過去形が使用された場面との違いは，話し手と聞き手との「情報や知識の違い（以下，認識のずれ）」があるかどうかである。これは，話し手の観点からみると，話し手の認識が前提となっているかどうかの違いと言える。

次の (13)(14) のように，話し手が結果状態を初めて見た場合，韓国語では過去形の使用が自然である。

(13)（靴下を履こうとしたら，穴があいている）
穴 a. {? あいた / あいてる }。
b. {na-ass-ne / ?na-(a) iss-ne}.
あく - 過去形 - 語尾　あく - 結果状態形 - 語尾

(14)（チヂミを食べたことのない友達同士が，韓国に遊びに来て，始めてチヂミを食べていたら，チヂミに唐辛子が入っているのを見た。それを辛いものが苦手な友達に言う）
唐辛子が a. {? 入ったよ / 入ってるよ }。
b. {deuleoga-(a)ss-eo
入る - 過去形 - 語尾

/?deuleoga-(a) iss-eo}.
入る - 結果状態形 - 語尾　（作例）

(13)(14) のように韓国語の過去形が使用される場面は，話し手が初めて見た結果状態を言う場面であり，話し手が持っている認識が前提にならない場合である。

一方，次の (13)’(14)’ のように，「話し手は p であると思っていたが，眼前の状態（もしくは聞き手）が p ではなく，q である」場合は，結果状態形の使用が自然になる。

(13)’（さっきコンビニで買った靴下を履こうとしたら，穴があいている）
穴　a. {? あいた / あいてる }。
b. {na-ass-ne　/　na-(a) iss-ne}.
あく - 過去形 - 語尾 あく - 結果状態形 - 語尾

(14)’（辛いものが苦手な日本人の友達が初めて韓国に来て，食堂でチヂミを頼もうとしている。友達は，日本でしかチヂミを食べたことがないため，韓国のチヂミは唐辛子が入っていて辛いのがわからないようだ。その友達に）
韓国のチヂミは唐辛子が
a. {? 入ったよ / 入ってるよ }。
b. {deuleoga-(a)ss-eo
入る - 過去形 - 語尾
/deuleoga-(a) iss-eo}.
入る - 結果状態形 - 語尾　（作例）

(13)’ は (13) と同様に話し手が初めてみた場面であるが，「さっき買ってきた靴下なのだから穴があいているはずがないと思っている話し手と，穴があいている靴下（眼前の状態）」といった話し手の認識と眼前の状態とのずれがある場合である。同様に，(14)’ も「チヂミは辛くないものだと思っている友達と，実は本場のチヂミは辛いものだと言う話し手」といった話し手の認識と聞き手の認識とのずれがある場面である。

また，(14)’ は「話し手が持っている，本場のチヂミは唐辛子が入っているという情報を，それを知らない聞き手に言う」といった場面とも解釈できる。つまり，話し手が持っている情報を，それを知らない聞き手に言うという場面も，話し手が自分の認識を基準としている点で本質的には話し手と聞き手との「認識のずれ（自分（話し手）はある情報を持っているが，相手（聞き手）はその情報を持っていないという前提）」によるものと考えることができる[8)]。

李・白川（2017）の調査結果で，登場人物の動作の指示や場面の説明・描写をする【地の文】において結果状態形の使用が顕著に多かったのも，「書き手が独占的に持っている情報を，それを知らない読み手に言う」といった認識のずれによるものと説明できる。韓国語の結果状態形が，場面を説明・描写するというニュアンスを持つのも，「認識のずれがある」という使用条件，つまり，「認識の修正・更新する」場面に使用されることによるものと考えられる。

このように，韓国語の結果状態形は，「聞き手は p と思っているが，話し手が実は p ではなく q であることを聞き手に言う」「話し手が持っている情報 p を，それを持たない（φ）聞き手に言う」といった「認識のずれ」がある場合に使用できる。すなわち，韓国語の過去形は，「認識のずれ」があってもなくても使用できるが，韓国語の結果状態形は「認識のずれ」がなければ，使用できない。

以上のことから，日本語の結果状態形は認識のずれがあるかどうかに拘わらず「変化の瞬間あるいは変化の前後の状態を把握していない」とき（井上ほか（2002））に使用するのに対して，韓国語の結果状態形は「話し手の認識と聞き手の認識（もしくは眼前の結果状態）とのずれがある」ときに使用すると結論付けられる。

5．先行研究とのつながり

次は，生越（1997）において報告 (15) や再確認 (16) する場面の例として取り上げられた例文である[9)]。

(15)（ニュースで現場の記者が）道端に人がたくさん
a. {? 死にました / 死んでいます }。
b. {?juk-eoss-seubnida/juk-eo iss-seubnida }.
死ぬ - 過去形 - 丁寧　死ぬ - 結果状態形 - 丁寧

(16)（会社の壁に掛かった時計を見て，部長がひとりごとで）さっき注意したのに相変わらず
a. {? 止まったな / 止まってるな }。
b. {?meomchu-eoss-ne　/ meomchu-eo iss-ne}.
止まる - 過去形 - 語尾　止まる - 結果状態形 - 語尾
（生越（1997），(22)(23) 一部改変）

2節で指摘したように，生越（1997：149）の「変化の経緯が把握てきない，つまり，その状況をもとにして一つのまとまった出来事が再構築できないとき」という韓国語の結果状態形の使用条件と報告や再確認する場面とはどのようなつながりがあるのか不明確である。

本稿での「認識のずれ」という観点から考えれば，(15)(16) は，それぞれ「記者が持っている情報 p（道

端に人がたくさん死んでいる）を，それを知らない視聴者に言う」「話し手はｐ（注意をしたから時計の電池を交換して動いている，つまり，時計が止まっているはずがない）と思っていたが，眼前の結果状態はｐではなくｑ（時計が止まっている）である」といった認識のずれがある場面と考えられる。一方，(15)’(16)’のようにある結果状態を初めて見た場合は，話し手がすでに持っている認識が前提にならない。つまり，「認識のずれ」がない場合は，韓国語では過去形の使用が自然になる。

(15)’（生中継のニュースで現場の記者が事故現場に到着して，道端の死体を発見して）人がたくさん
　a. {? 死にました / 死んでいます }。
　b. {juk-eoss-seubnida / ?juk-eo iss- seubnida }.
　　死ぬ - 過去形 - 丁寧　死ぬ - 結果状態形 - 丁寧
(16)’（会社の壁に掛かった時計を見て，部長がひとりごとで）
　a. {? 止まったな / 止まってるな }。
　b. {meomchu-eoss-ne / ?meomchu-eo iss-ne}.
　　止まる - 過去形 - 語尾　止まる - 結果状態形 - 語尾
　　（作例）

次は，井上ほか（2002）の結果状態における日本語と韓国語の過去形と結果状態形の使用に関する例文である。

(17)（聞き手のハンカチが落ちたのを見て，その直後に）ハンカチが
　a. { 落ちましたよ /# 落ちてますよ }。
　b. {tteoleoji-eoss-eoyo/#tteoleoji-eo iss-eoyo}.
　　落ちる - 過去形 - 丁寧　落ちる - 結果状態形 - 丁寧
(18)（聞き手のハンカチが知らない間に聞き手の足下に落ちているのを見て）
　a. { 落ちましたよ / 落ちてますよ }。
　b. {tteoleoji-eoss-eoyo/tteoleoji-eo iss-eoyo}.
　　落ちる - 過去形 - 丁寧　落ちる - 結果状態形 - 丁寧
(19)（道に誰のものかわからないお金が落ちているのを見つけて）
　a. {# 落ちた / 落ちてる }。
　b. {tteoleoji-eoss-ne/
　　落ちる - 過去形 - 語尾
（「もうかった!」「警察に届けなきゃ」といった気持ち）
　tteoleoji-eo iss-ne}.
　落ちる - 結果状態形 - 語尾
（眼前の状態を傍観しているだけ）
　　（井上ほか（2002），(54)(55)(56) 一部改変）

「認識のずれ」という観点から考えれば，(17) のような場合に韓国語の結果状態形が使用できないのは，話し手がその場で初めて見た（以前から把握していたのではなくその場で初めて変化に気づいた）場面であるためと考えられる。韓国語の結果状態形が使用できる (18)(19) の場面は，それぞれ，「話し手が持っている情報ｐ（聞き手がハンカチを落とした）を，それを知らない（φ）聞き手に言う」（聞き手のハンカチであろうという話し手の認識が基準となり，推測して言う場面であるため，単に眼前の状態を言う場面ではない），「話し手はｐ（普段道にお金は落ちていない）と思っているが，眼前の状態はｐではなく，ｑ（道にお金が落ちている）である」といった認識のずれがある場面であると考えることができる。井上ほか（2002）の「具体的な場面設定」というのは，認識のずれによる「認識の修正・更新」が必要な場面を指していると考えることができる。

６．まとめと今後の課題

本稿は，結果状態における日本語と韓国語の結果状態形の使用基準の違いについて，対応関係と使用場面に注目し考察を行なった。その結果，日本語の結果状態形は「変化の瞬間あるいは変化の前後の状態を把握していない」ときに使用するが，韓国語の結果状態形は「話し手の認識と聞き手の認識（もしくは眼前の状態）とのずれがある」ときに使用することを明らかにした。

このような日本語と韓国語の結果状態形の使用基準の違いという観点からみると，(1) のような韓国人学習者の誤用は，韓国語の結果状態形の使用基準をそのまま日本語に当てはめた，いわゆる母語の干渉によるものと考えることができる。

(1)（一緒に食事をしている友達の頬にご飯粒が付いている。それを見て，友達に）
　ほっぺたに，なにか付い<u>た</u>よ。　　（再掲）

(1) は，「話し手が持っている情報（聞き手の頬にご飯粒が付いている）を，それを知らない聞き手に言う」場面ではあるが，話し手が対話の場面で初めて見た結果状態をそのまま述べる場面であり，話し手が持っている認識が前提にならない場合である。つまり，「認識のずれ」がない場合である[10]。

このような場合，韓国語では過去形の使用が自然である。そのため，「- タ」を使用したと思われる。

このように，韓国人学習者は結果状態を言う場面に

おいて，韓国語の結果状態形の使用基準をそのまま日本語に当てはめ，誤用を犯す可能性がある。(1) のような場合もそうであるが，例えば，「認識のずれ」がない場合に，日本語の過去形を選択すると思われる。今後は，「認識のずれ」がある場面と，ない場面などにおける韓国人学習者の「- タ」「- テイル」の選択傾向について調査をすることで，韓国人学習者はどのような場面で「- タ」と「- テイル」の混同の誤用を犯すのかについて考察を行いたい。

【注】

1）本稿で取り上げているすべての例文に付されている韓国語のローマ字表記と韓国語のグロスは，筆者によるものである。

2）韓日シナリオ集から抜粋した (4) ～ (12) の用例は，紙面の都合上，対応関係を示すところのみ，日本語と韓国語の並列表記とした。

3）日本語の「生きる」は，変化を表す動詞であるか，また「生きている」は結果状態を表しているのかについては議論の余地がある。本稿では，日本語と韓国語の対応関係と母語の影響という観点から考察を行うことと，韓国語の「-eo iss-da」は，専ら結果状態を表す形式であるため，「-eo iss-da」が使用されている場合は結果状態場面と見做した。

4）日本語の「関わる」も，日本語の「生きる」と同様の理由で結果状態場面と見做した。

5）ソン（2001）は，現代韓国語の過去形「-eoss-da」は，中世韓国語の「-eo is-da」から来ているとし，「中世韓国語の「-eo is-da」が現代韓国語では，形態上には過去形「-eoss-da」に現れるが，意味上には結果状態「-eo iss-da」の意味をある程度維持している（p.62）」としている。韓国語の結果状態形が使用できる場面において，過去形に言い換えができるのは，現代韓国語の過去形「-eoss-da」は，＜過去＞の意味だけでなく＜結果状態＞の意味をも合わせ持つからだと考えられる。

6）筆者自身を含め6名の韓国語母語話者が過去形への言い換えの可否について判定した。その結果，3名が言い換え可と判定したが，「過去形も使用できるが，結果状態形がより自然である（言い換え可と判定した3名のうち1名）」「(4) と同様な場面であれば，過去形の使用はやや不自然である（言い換え不可と判断した3名のうち1名）」という意見があった。韓国語母語話者のなかでゆれが見られるが，それは判定の際に，過去形に言い換えることで生じるニュアンスの問題に重みを置いているかどうかの違いによると思われる。(5)’～ (9)’ については，全員が言い換え可と判定した。

7）過去形に言い換えると皆の知らない事実を告げるニュアンスが色濃くなり，その点で，3-1-2で述べる用法への移行が感じ取られるかもしれない（(6)’ の場合も同様で，さらにその傾向は強い）。3-1-1の用法と3-1-2の用法は便宜的には分けることができるが，話し手と聞き手の認識にずれがあるという点では共通しており，どちらにも解釈できるような場合があったとしても，それは本稿の主張を損ねるものではない。

8）3－1－2であげている (7) ～ (9) も，「聞き手は q と思っているが，話し手が聞き手に「実は q ではなく，p である」ことを言う場面と解釈できる。(7) は，「ミンジは？」というミンチョルの質問に，ミョンジャがぎっくとしてソンチョルを見ることから読み取れるように，ミンチョルはミンジが当然ミンジは家にいると思っているが，ミョンジャがミンジは家におらず，祖母の家に行っていると答えていると考えられる。(8) は，イナはスヨンが待っていると思っているが，ジョングがイナは対外的に死んでいると言い，スヨンはイナを待っていないと答える。(9) は，観客が歓声をあげることから，まさかキム・サンヒョクさんのフィアンセが来ているとは思わなかったことが読み取れる。

9）本稿の例文の提示順序を統一するため，生越（1997）より引用した用例に関しては原文の提示順序（a. 韓国語，b. 日本語）を変更（a. 日本語，b. 韓国語）して記載してある。

10）(1) のような場面において，韓国語の結果状態形が使用される場合がある。「ほっぺたにご飯粒がついている」ことを言うことで，聞き手に恥をかかせたりするため，話し手は言うか言うまいか迷い，ある程度時間が経っても聞き手が気づかなかったので言う場合である。ある程度時間が経ったということは，聞き手の頬にご飯粒がついている事実が，すでに話し手の認識になったことであり，その話し手の認識を前提に結果状態場面を述べると解釈できる。つまり，発話の場面以前に（ある程度時間が経ったため）話し手が持っている認識・知識を，それを知らない聞き手に言う場面となり，結果状態形が使用できると説明できる。

【参考文献】

李在鉉・白川博之（2017）「韓日対訳シナリオ集から見た日本語と韓国語のアスペクト形式の対応関係 -

「- テイル」形とそれに対応する韓国語の形式を中心に -」『広島大学日本語教育研究』**27**，pp.11-19，広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座

井上優・生越直樹・木村英樹（2002）「テンス・アスペクトの比較対照－日本語・朝鮮語・中国語」生越直樹（編）『シリーズ言語科学4　対照言語学』，pp.125-160，東京大学出版会

生越直樹（1995）「朝鮮語 hayssta 形, hay issta 形（hago issta 形）と日本語シタ形，シテイル形」『研究報告集』**16**，185-206. 国立国語研究所

生越直樹（1997）「朝鮮語と日本語の過去形の使い方―　結果状態形との関連を中心にして」『日本語と外国語の対照研究Ⅳ　日本語と朝鮮語　下巻：研究論文編』，pp.79-89，国立国語研究所（編）

ソン・チャンソン（2001）「「-eoss-」に残っている「-eo iss-」の特徴」『語文学』**73**，pp.47-66，韓国語文学会